

第 104 回 薬剤師国家試験問題検討委員会
「法規・制度・倫理部会」 報告書

令和元年 5 月 31 日

日 時： 令和元年 5 月 11 日（土） 13 時 30 分～17 時 00 分

場 所： 慶應義塾大学薬学部芝共立キャンパス

出席者：

私立大学	55 校	65 名
国公立大学	12 校	13 名
計	67 校	78 名

委員長名	亀井 美和子
所属大学名	日本大学

1. 総合評価

必須問題、理論問題、実践問題のいずれも、内容と難易度は概ね適切であった。新傾向の問題が複数出題されており、中には詳細な知識が求められる問題が一部含まれていたが、既出問題からの関連知識や熟慮することにより対応できるものであった。また、常識があれば正解を導くことができる平易な問題も出題された。

出題基準の幅広い範囲から出題されていたが、過去と比較して、倫理及びコミュニケーションに関わる出題が多い傾向がみられた。治験に関わる制度・倫理（問 141、問 148、問 317）、生命倫理（問 79）、遺伝子診断に係る倫理的問題（問 149）、医学研究に係る倫理（問 150）など、倫理に関わる出題数が多い一方で、第 103 回では複数出題されていた管理薬（麻薬・向精神薬、覚醒剤原料、毒劇物など）については、法規・制度・倫理としての出題は必須問題のみ（問 75）であった。また、医薬品等に係る許可・承認、地域薬局に関する出題が少なく、図やグラフを用いた問題は出題されなかった。法規・制度・倫理の出題基準の範囲は広く、全範囲から万遍なく出題することは難しいが、年度ごとに大きく偏ることがないような配慮が求められる。

評価できる点としては、誤りがあると判断された問題はなく、実践問題に係る複合性が低いとの指摘も例年より少ないことが挙げられ、十分検討・精査されたことがうかがえた。なお、第 104 回に限ったことではないが、大学において「別の科目・分野で教えている」または「教えていない」とする意見が、必須問題、理論問題、実践問題のいずれにもあった。大学には、法規・制度・倫理の領域が広いことを踏まえて、大学内での教育体制の充実、科目間の連携等を図る等の対応が望まれる。

2. 各項目の評価

1) 「誤りがあると判断された問題」

なし

2) 「問題の観点から不適切である問題」

問 145 薬剤師の員数の基準は種々の要件で異なること、また、計算させることの意義が低い等により不適切とする意見が多かったが、過去には配置基準に関する出題があり新傾向ではないという意見もあった。

3) 「問題・選択肢の表現が不適切である問題」

問 76 調剤された薬剤は製造物責任法の「対象にならない」と考えられているが、断言することはできないのではないか。問い方を工夫したほうがよい。

問 143 選択肢 1 「本邦において定められた人数に達しない場合に指定されるものである」は、これだけで指定される訳ではないので、指定の条件の 1 つであることがわかるように表現したほうがよい。

問 146 救済給付の対象とされない厚生労働大臣の指定する医薬品は多数あることから、対象となるかどうかを具体的な医薬品名で問わないほうがよい。

問 147 数年前の医薬品の生産金額についての問題であり、選択肢に「ほぼ横ばい」「約 10 兆円」「1 割程度」などの判断に迷う表現が含まれている。

問 311 患者への対応として適切なものと不適切なものの区別が容易すぎる。

4) 「複合性が不適切な問題」

なし

5) 「授業で触れていない問題」

問 79 熟慮すれば回答を導き出せるが、生命倫理の 4 原則を「他科目・領域で教えている」「教えていない」という意見が多かった。

問 80 言語メッセージが音声のみではないことを問う聴覚障害者の立場に立った問題であるが、「教えきれていない」という意見が多かった。

問 147 選択肢 5 の一般用医薬品の薬効大分類生産金額までは触れていないという意見が複数あった。

問 149 選択肢 2 の自己情報コントロール権など選択肢の一部は教えていないという意見が複数あった。

問 309 DPC 制度について、詳細には教えていないとする意見が多かった。

6) その他特記事項

なし

3. 各問題の評価

別紙 1 のとおり

別紙1 第104回薬剤師国家試験問題「法規・制度・倫理」部会 評価表

問番号	誤り			適切性			表現			授業で教えて			
	ある	ない	わからない	不適切	適切	わからない	不適切	適切	わからない	いない	いる	一部いない	
必須問題	71	0	65	0	0	65	0	0	65	0	2	63	0
	72	0	65	0	0	65	0	0	65	0	1	64	0
	73	0	64	0	0	64	0	1	63	0	3	60	1
	74	0	64	0	1	63	0	1	63	0	1	62	1
	75	0	64	0	0	64	0	0	64	0	1	62	1
	76	0	61	3	0	64	0	0	64	0	1	62	1
	77	0	64	0	0	63	1	1	63	0	2	62	0
	78	0	64	0	0	64	0	0	64	0	1	63	0
	79	0	61	3	2	58	4	1	60	3	9	41	14
	80	0	63	1	1	61	2	0	61	3	5	49	10
一般問題 (薬学理論問題)	141	0	64	0	0	63	1	1	62	1	0	61	3
	142	0	63	1	0	64	0	0	63	1	2	59	3
	143	0	64	0	0	64	0	1	62	1	2	61	1
	144	0	64	0	0	64	0	0	64	0	1	63	0
	145	0	64	0	4	56	4	0	60	4	2	54	8
	146	0	64	0	2	62	0	1	62	1	2	59	3
	147	0	62	2	1	57	6	3	57	4	6	37	21
	148	0	64	0	0	64	0	0	64	0	0	61	3
	149	0	61	3	0	59	5	1	52	11	4	40	20
	150	0	64	0	0	64	0	1	60	3	0	60	4

問番号	誤り			適切性			表現			複合性			授業で教えて			
	ある	ない	わからない	不適切	適切	わからない	不適切	適切	わからない	不適切	適切	わからない	いない	いる	一部いない	
一般問題 (薬学実践問題)	307	0	65	0	1	61	3	1	61	3	0	58	7	2	50	13
	309	0	65	0	1	57	7	0	62	3	1	49	16	3	42	20
	311	0	64	1	0	62	3	1	57	7	0	59	6	2	58	5
	313	0	62	3	0	62	3	0	63	2	0	60	5	1	59	5
	315	0	65	0	0	64	1	1	62	2	0	61	4	4	47	14
	317	0	65	0	2	58	5	0	62	3	0	61	4	3	52	10
	318	0	65	0	0	64	1	0	64	1	0	62	3	1	56	8
	321	0	65	0	0	65	0	1	63	1	1	61	3	1	64	0
	322	0	65	0	0	65	0	1	64	0	0	60	5	3	56	6
	324	0	65	0	0	62	3	0	64	1	0	62	3	3	51	11